

県産材製材品の表面線量調査の結果について

1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

2 調査時期 平成25年3月1日～平成25年5月31日

3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している121事業者について調査した。

4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	22	33	23	4	4	11	24	121
検体数(本)	220	302	201	24	24	65	240	1,076

5 調査結果

現在県産材が出荷されている121工場における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は35cpm（0.001 μ Sv/h*に相当）であった。

35cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学松田尚樹教授及び独立行政法人放射線医学総合研究所 鈴木敏和 外部被ばく評価室長に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04 μ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H25.5.9)	0.0450 μ SV/h

【調査結果内訳】

区分	表面線量 (cpm)				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
工場数	38	76	7	0	121
検体数(本)	829	238	9	0	1,076

最大値：35cpm
 最小値：0cpm
 平均値：1cpm

6 現在までの調査結果について

平成23年12月、平成24年3月、6月、9月、12月に調査を実施した。
(計5回)

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
今回調査	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。

7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考>

cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成

※詳細については下記URLを参照してください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/rad-accur/pdf/case_study_1_table_j.pdf